

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 71号

2013/10/28 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：買われ過ぎ、利益確定の動きにより若干下方向への値動き

①週最高：3月 LDN 市場 £1,744 / 12月 NY 市場 \$2,769 (10/22) 先週比 **LDN - £25 / NY - \$1**
②週最低：3月 LDN 市場 £1,702 / 12月 NY 市場 \$2,686 (10/24) 先週比 **LDN - £19 / NY - \$35**
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £42 (傾向↓) / NY 市場 \$83 (傾向↓)
週内建玉推移：LDN 市場 240,797 枚(10/18 終了時)⇒237,892 枚 (10/24 終了時) **-2,905 枚**
NY 市場 221,216 枚(10/18 終了時)⇒224,414 枚 (10/24 終了時) **+3,198 枚**

【10月21日(月)】小反発＝高値水準での値固め続く

ロンドン、ニューヨークのいずれも、2年ぶり高値を下回る水準で値固めが続き、小反発して引けた。ニューヨークの12月きりは9ドル(0.3%)高の2730ドル、ロンドンの3月きりは4ポンド(0.2%)高の1725ポンドで取引を終えた。

2～20日のコートジボワールの輸出集荷高は推計約10万6000トンと、前年同期(5万1000トン)を上回った。ブローカーらは、今後もこのペースが続くなら、相場を圧迫する可能性があるとみている。

【10月22日(火)】両市場とも続伸

ニューヨーク市場のココア先物は続伸、12月きりは39ドル(1.4%)高の**2769ドル**で終了した。世界的な供給逼迫(ひっばく)観測が支援要因。3月きりに対する逆ザヤが続いている。

取引所のデータによると、21日時点の未決済約定残高は約2000枚増の22万3243枚となった。これは5月23日以来の高水準。

ロンドン市場の3月きりも続伸、3月きりは19ポンド(1.1%)高の**1744ポンド**で引けた。

【10月23日(水)】両市場とも反落

両市場とも反落。利益確定の売りに押された。

ニューヨーク市場の12月きりは55ドル(2%)安の2714ドルで終了。前日の上昇分をほぼ帳消

しにしたことになる。ロンドンのブローカーは、西アフリカの産地筋の売りが相場を圧迫したの見方を示した。

ココア相場は過去7週間で約15%上昇しており、ディーラーによると、利食い売りの好機になっているという。

ロンドン市場の3月きりは28ポンド（1.6%）安の1716ポンドで取引を終えた。

【10月24日（木）】両市場とも続落

ニューヨーク市場は続落。今週前半に付けた2年ぶりの高値について、多くのディーラーが買われ過ぎの水準にあるとみたことが背景。

12月きりは28ドル（1%）安の2686ドルで終了。22日に付けた2年ぶり高値の2780ドルから大きく離れた。

ディーラーらによると、相場が過去3カ月間で約20%上昇したことを受けて複数のファンドが利益確定に走ることを踏まえれば、下落は想定できたという。ロンドン市場も続落。3月きりは14ポンド（0.8%）安の1702ポンドで取引を終えた。

あるブローカーは「ロンドンの12月きりは産業筋が一定程度買い支えてきた。現在は少しそれが減っており、1700ポンドを下回る可能性がある」と述べた。

【10月25日（金）】両市場とも反発

ニューヨーク市場の12月当ぎりは反発し、27ドル（1%）高の2713ドルで引けた。過去2日間で大幅な下落を記録した後、トレーダーらが玉整理に動いた。ロンドン市場も反発し、3月きりは16ポンド（0.9%）高の1718ポンドで終了した。

2、カメルーン・カカオ豆輸出、前年比大幅減 9月末日時点ココア・コーヒー委員会 (10/23)

カメルーンのココア・コーヒー委員会（NCCB）は22日、今年度（2013年8月～14年7月）の9月末時点のカカオ豆輸出量は1万9855トンと、前年同期（3万0248トン）を大幅に下回ったと発表した。9月の輸出量は1万3603トン（前年同月1万7940トン）、8月は6252トンにとどまった。NCCBと国立ココア・コーヒー専門委員会（CCIB）は輸出減の要因に、中部、南部、東部などの主産地で今期開始3カ月前から続いた雨不足による影響を指摘した。

3、コートジボワール・カカオ豆主産地、気温上昇でブラックポッド病の懸念後退(10/22)

コートジボワールの農家によると、同国カカオ豆主産地では先週、豊富な降雨と日照に恵まれたほか、気温も上昇し、最近発生したブラックポッド病の懸念が後退し始めた。

輸出業者が21日公表した推計によると、シーズン入りした10月2日以降、同国諸港のカカオ豆着荷量は20日時点で約10万6000トンに達し、前年同期の5万1000トンを上回った。農家によると、収穫作業も回復しており、メインクロップの良質なカカオ豆は11月と12月に出荷される見通し。西部ソブレ郊外の農家は「樹木にはたくさんのカカオ豆が実り始めている。日照時間も多く、豆は非常に良く乾燥している」と語った。また、西部ガニョアの農家は「気温上昇で、現在は樹木のブラックポッド病はほんのわずかしかない」と説明した。これまでブラックポッド病の発生が急速に拡大していた

ササンドラからも、同様の生育状況が報告されている。

4、ガーナ、新シーズンのカカオ買付け価格に対して、反対意見も強い(10/23)

ガーナのカカオの新物の買付け価格に対して弱い立場である農家の立場を代表して、Owusu Afriyie Akoto 博士は 2013/2014 シーズンのカカオ買付け価格が、前シーズンの 2012/2013 シーズンと変わらない価格とすることを政府が決定した事実はガーナのカカオ農家にとって大きな失望だと反対意見を述べた。

ガーナ・ココボッドは先日、2013/2014 シーズンの中の農家からのカカオ買付け価格は前シーズンと変わらずトン当たり 3,280 ガーナセディ（≒1640 米ドル相当）で上げない方針を発表した。

しかしながら、アシャンティ州の選挙区の 1 つである Kwadaso 選挙区選出の国会議員であり、またカカオ農家でもある Akoto 博士は、この決定は 2013/2014 年のカカオ農家の収入を減らすことを意味していると言及している。

彼は、ガーナ国内はインフレ傾向にあり、カカオの栽培に必要な費用が値上がりしている。また、政府関係者の給与が 10%上昇したことも考慮に入れると、今回の政府のカカオ豆の買付け価格の決定によりカカオ農家はさらに貧しくなったと言える。

『今年のカカオ豆の買付け価格を昨シーズンと同様に設定することは、全く不公平だ。なぜなら現在のカカオを含むコモディティの市場価格は、今年のこの時期よりかなり高くなっているからだ。』

『これは、また米ドルに対してのセディが 20%価格下落していることを考慮に入れると、現地通貨ベースではカカオは前シーズンよりかなり高めに設定されなければならない、非常に不公平感がある』

この議員によれば、政府の決定は、将来的に持続的なカカオ豆生産者の支援プログラムが打ち切られることが更に深刻な問題でもあると指摘している。

政府のプログラムが発表した所によると、ガーナでは 2011/2012 シーズンでは全国のカカオ農家に対して 220 万袋の肥料が配布されたが、2012/2013 シーズンでは 50 万袋に減少された。

また、同期間に swollen shoot 病（カカオに対するウィルス病）に対してのカカオ農家への農薬散布プログラムは年間 4 回実施から、2 回実施へ減り、また Capsid の害虫病やその他の害虫に対しての殺虫剤の散布は年間 2 回から 1 回に減少されたという。

また、現在の所、同氏によれば上記の 2 つのプログラムは今シーズンも継続するかどうかは今の所発表されていない。

彼はカカオ農家の実際の収入が減少し、政府の農家支援プログラムが廃止になることで、今後の将来的なカカオ生産数量の減少と、カカオ豆輸出の収入の減少を予測している。

これまでガーナのカカオ産業は農家への収入増加、大規模な農薬散布活動、最新の品種の紹介の3つの大きな柱により、カカオ豆の生産数量を2001/2002シーズンには35万トンであったが、2005/2006シーズンには76万トン、そして2010/2011シーズンには100万トンにまで増加させてきた。この間、収穫数量は順調に増加してきた為、ガーナの国民はカカオ産業についての将来を議論、発展させることに注力をしてこなかった。

Akoto 博士は今後予想されるガーナのカカオ産業の不安要素面を強調している。ガーナは今後数年間の間にもう一度2001/2002シーズンの収穫数量レベルである36万トンの規模に収穫数量が激減することに対して準備をするべきであろうと警報を鳴らしている。

※ニュースソース：graphic.com

5、ガーナのカカオは世界的な輸入禁止の危機に直面している(10/23)

ガーナ産カカオ豆は近いうちに高い残留農薬の数値により国際的な市場への輸入を禁止される可能性がある。

ガーナ大学の食品化学&技術学部の Emmanuel Ohene Afokwa 教授はガーナの専門誌 CITY&BUSINESS GUIDE 誌のインタビューでこの見解を発表し、カカオ豆の残留農薬はカカオ豆を人間が消費するに際して安全性を不確かなものにしており、得に肺や肝臓への癌の発症の原因となる可能性があると言及した。

同氏によれば、『今、この問題を早急に発言しなければ、ガーナで大変重要なカカオ産業は数年後には事業にならなくなってしまうかもしれない』と。

また、同氏は更に、『今後農薬の使用を我々が管理できなければ、欧州にも、米国にも、アジア市場にもカカオ豆が販売できなくなるだろう』と言及している。

彼は、最近日本向けのカカオ豆で残留農薬が原因で輸入を差し止められている事例や、欧州市場でも西アフリカ産のカカオ豆から基準以上の残留農薬が検出されたことにより、検査の目が厳しくなっていると説明している。

彼は、ガーナのカカオから基準以上の残留農薬が検出されてしまうのは、カカオ農家が大量の農薬を散布することで、より早く、完全に害虫などを駆除でき効果が高いと考えていることに起因していると説明している。

また、ブラックポッドや swallow shot ウィルスに対する対策を政府が農家任せにしてしまっていることを批判している。彼は、カカオ農家は外部指導員により殺虫剤の必要以上の散布がおこなわれないように、規制され、指導されるべきであると説明している。

そして、現状より更に多くの農家への外部指導員を雇用し農薬の散布方法全般に対して農家へ教育する必要性を訴えている。

同氏は、ガーナ大学の授業の中で、残留農薬の問題はありながらも改善に向けての努力をすればガーナのカカオ産業はカカオの生産性と市場での評価から大きな利益を得るであろうと語っている。

※ニュースソース：Daily Guide

今週の関連記事

ECBは来年追加資金供給か ユーロ高と短期金利上昇が契機との観測(10/25)

ユーロ圏の短期金融市場では、欧州中央銀行（ECB）が来年、景気回復の腰折れを招きかねないユーロと短期金利の上昇を抑えるため、新たに長期資金供給オペ（LTRO）を実施すると予想されている。24日に発表された10月のユーロ圏購買担当者景気指数（PMI）は、サービス部門が予想外に前月比で低下。景気の足取りの弱さが浮き彫りになり、ECBの追加緩和観測が高まった。

ドラギECB総裁は既に、必要が生じれば追加緩和を行うと示唆している。しかし複数のECB理事らの最近の発言により、2010年と11年に実施した各1兆ユーロの3年物LTROのような緩和策があり得るのかどうか、疑問も生じている。

1カ月物EONIAフォワードを見ると、翌日物の銀行間金利は2015年末までECBの主要政策金利の0.5%を大幅に下回り続ける見通しだが、市場が金融環境の引き締まりを織り込み始めれば政策金利を上回らねない。反面、ECBが追加緩和に踏み切れば短期市場金利はさらに下がり、投資家にとってユーロの魅力が減退するだろう。

ユーロ/ドルは24日に1.3800ドルを超えて2011年11月以来、約2年ぶりの高値を付け、輸出を圧迫する恐れが生じている。年初来では4.7%高で、ポンドに対しても5.3%上昇した。幅広い通貨に対する上昇を反映し、ユーロの実効レートも約2年ぶりの高値水準にある。

BNPパリバのストラテジスト、パトリック・ジャック氏は「ECBが来年中に新たなLTROを通じた追加措置を講じる可能性を、市場は徐々に織り込んでいる。この観測はおそらくユーロ/ドルの大幅上昇によって強まっている」と述べた。

ドラギ総裁は今月、為替相場はECBの政策目標ではないとしたうえで、ユーロ相場の動向に「注意を払っている」と述べた。

ユーロ圏の企業は既にユーロ高による打撃を感じている。英蘭系の日用品大手ユニリーバ ULVR.L UNc.AS の四半期決算は、複数の新興国による通貨切り下げで商品の需要が落ちたため、売上高の伸びが鈍化した。

ドイツの企業向けソフトウェア大手SAPは、ユーロが高止まりすれば利益に悪影響が及ぶと警告している。

<適切な手段>

ユーロ圏のインフレ率急低下も、ECBが来年追加緩和に踏み切る理由になるかもしれない。9月は1.1%で、ECBが目標とする「2%に近い」水準を大幅に下回った。

ソシエテ・ジェネラルのシニア欧州エコノミストでECBウォッチャーのアナトーリー・アネンコフ氏は「ECBは為替レートを目標にしていらないとはいえ、これほど低いインフレ率と（ユーロの）さらなる

上昇は利下げの根拠になり得る」と話す。

ただアネンコフ氏は「LTROの方がより適切な手段だという考えは変えていない。ユーロ安を招いてインフレ率の低下を防ぐと同時に、来年の流動性に対する備えにもなるからだ」と付け加えた。

銀行が既存のLTROを返済するにつれ、ユーロ圏金融システムの過剰流動性は縮小しているため、短期市場金利に上昇圧力がかかりECBは行動を迫られるかもしれない。

過剰流動性が2000億ユーロを下回ると、ユーロ圏の短期金利は通常上昇し始める。現在は、ECBがLTROを開始する直前の2011年末以来で最低の1870億ユーロだ。

INGのストラテジスト、アレッサンドロ・ジャンサンティ氏は「EONIAの上昇圧力が高まり始めるのは、今後数カ月中の問題だ。これはECBにとって避けたい事態であり、追加LTRO実施の契機になる可能性がある」と述べた。

*特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております!!こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp